

第2章

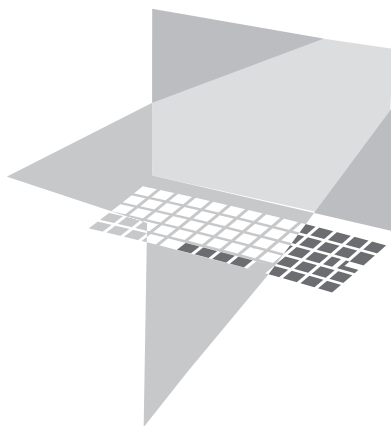
パソコンの利用

鈴木 久 (1 節)

和気 竜也 (2・3 節)

秋山 大志 (4・5 節)

谷内 正裕 (6 節)



家庭でのパソコンの利用の実態

1 家庭でのパソコンの利用率

家庭でのパソコンの利用率は、小学生が6割、中学生が7割、高校生が8割。小・中学生では成績上位層、高校生では進学校で利用率が高い。

◆ 家庭でのパソコンの利用率

現在子どもたちのパソコン利用率はどのくらいなのだろうか。「あなたの家にはパソコンがありますか」とたずねた。「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」を合わせたパソコンの利用率を、学校段階別と学年別にみたものが図2-1-1である。学年があがるにつれて利用率が増えていることがわかる。性別にしてみると、小5生から高1生までは女子のほうがやや利用率が高い。

一方で「家にパソコンはない」と回答した割合は小・中学生では1割、高校生では7.5%だった（基礎集計表 p.180参照）。

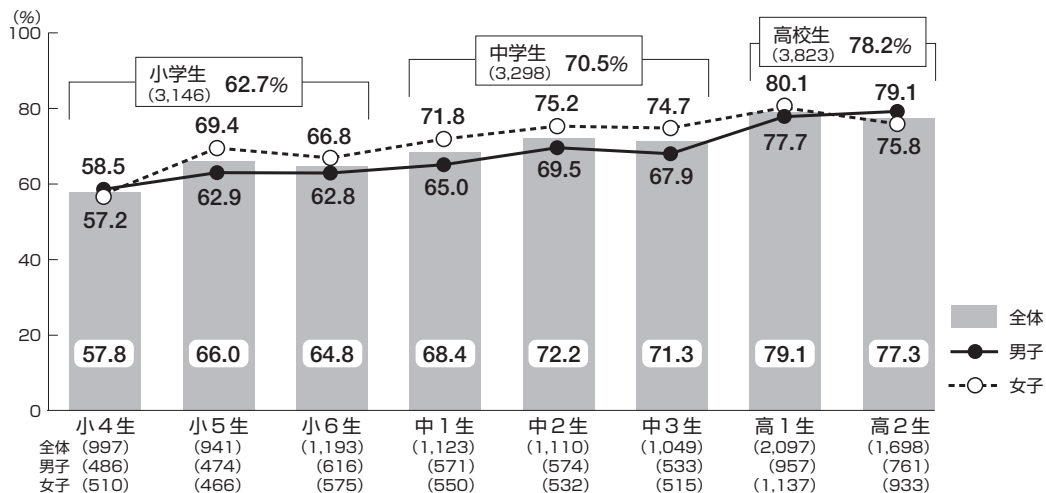
◆ 地域・成績別にみる利用率

地域別にみたものが図2-1-2である。小・中学生では郡部と中都市の利用率はほぼ同じで、大都市で高いが、高校生では中都市と大都市の利用率がほぼ同じで郡部より高い。

図2-1-3は、成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）別にみた結果である。小・中学生では成績下位層から上位層、高校生では進路多様校から進学校へと利用率の増加がみられる。

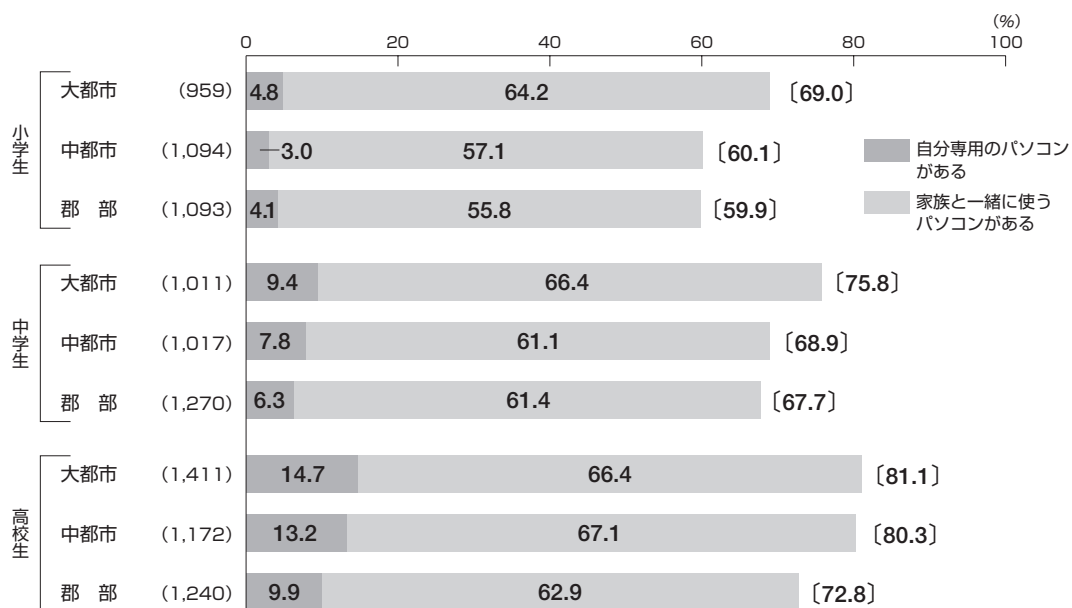
家庭での利用率は、地域による差と学校の成績との関係がみられる。今後、利用率をみるうえでは、地域別の情報インフラの整備状況などとの関連をみることも課題である。

図2-1-1 家庭でのパソコンの利用率（学校段階別、学年別、学年別／性別）



注1) 「自分専用のパソコンがある」 + 「家族と一緒に使うパソコンがある」の%。 注2) () 内はサンプル数。

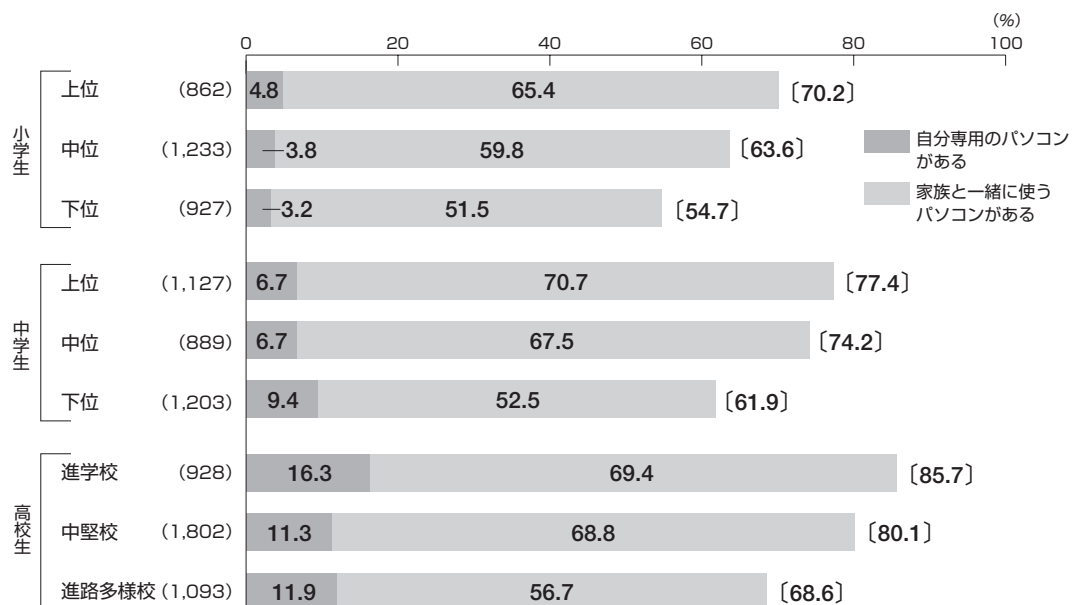
図2-1-2 家庭でのパソコンの利用率（学校段階別／地域別）



注1) [] 内の数値は利用率（「自分専用のパソコンがある」+「家族と一緒に使うパソコンがある」の%）。

注2) () 内はサンプル数。

図2-1-3 家庭でのパソコンの利用率（学校段階別／成績・高校偏差値層別）



注1) [] 内の数値は利用率（「自分専用のパソコンがある」+「家族と一緒に使うパソコンがある」の%）。

注2) () 内はサンプル数。

2 パソコンの利用内容

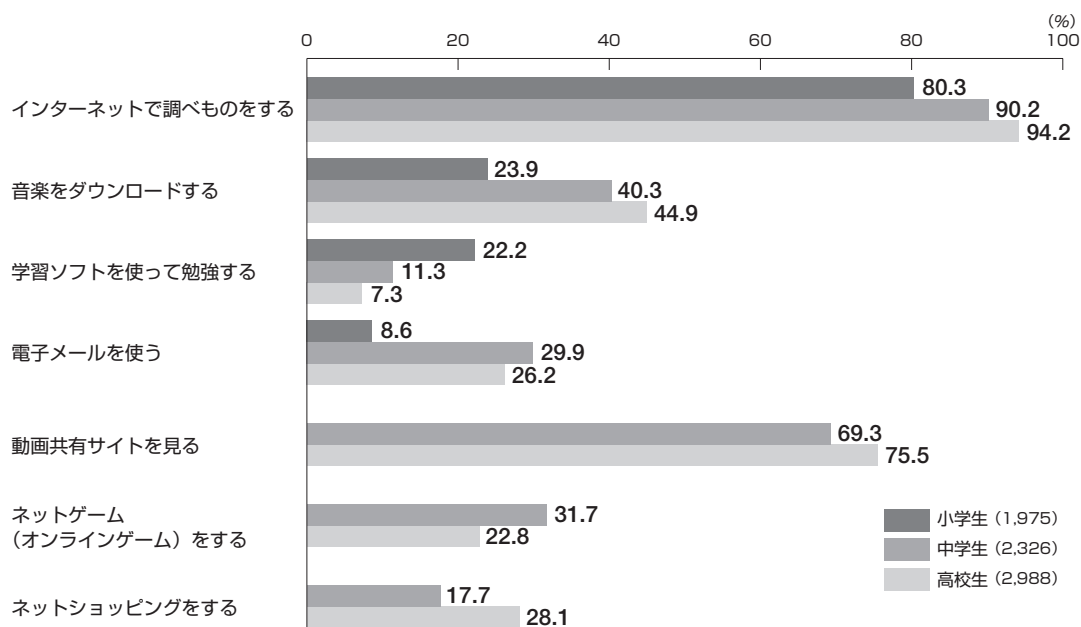
「インターネットで調べものをする」のはどの学校段階においてもパソコン利用者の8割以上。また、中・高校生の動画共有サイトの利用も7割前後と多い。

◆ どの学校段階でも8割以上は インターネットで調べものをする

「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した子どもたちに、パソコンの利用内容をたずねた。図2-1-4は、各項目に「する」と回答した割合を示している。「インターネットで調べものをする」は学校段階を問わず8割以上が「する」と回答し、高校生では利用者の94.2%にのぼった。中・高校生のみなたずねた「動画共有サイトを見る」も、中学生で69.3%、高校生で75.5%と多い。「音楽をダウンロードする」は学校段階があがるにつれ増加している。中・高校生のみなたずねた「ネットショッピングをする」

も学校段階があがると利用率が増加するが、表2-1-1に示したように、とくに中2生と中3生の間で増加する。一方、「学習ソフトを使って勉強する」は学校段階があがるにつれ減少の傾向にある。「ネットゲーム（オンラインゲーム）をする」も同様である。「電子メールを使う」は小学生から中学生で増加したあと、高校生で再び減少しているが、学年別にみると、中3生をピークに減少していることがわかる。高校生では携帯電話の所有率が9割を超えており（第1章第1節参照）、パソコンと携帯電話の利用について、使い分けがあるように思われる。

図2-1-4 パソコンの利用内容（学校段階別）



注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) 「する」の%。

注3) 「動画共有サイトを見る」「ネットゲーム（オンラインゲーム）をする」「ネットショッピングをする」は、中・高校生のみなたずねた。

注4) ()内はサンプル数。

次に、利用内容を性別にみてみると、表2-1-2に示したとおり、小学生では「インターネットで調べものをする」以外は女子のほうが利用率が5ポイント以上高い。また「電子メールを使う」は各学校段階で女子のほうが高くなっている。

本調査でたずねたパソコンの利用内容をみると、「電子メール」以外にはコンテンツの存在がある。「学習ソフトを使う」という回

答が学校段階があがると減少する背景には、学校段階に応じたコンテンツの充実度の違いも一因としてあると考えられる。また、質問紙調査では小学生にたずねていない「動画共有サイト」や「ネットゲーム」について、インタビュー調査では利用実態があり、利用層の低年齢化をみるうえで、今後の調査での検討が必要になりそうだ。

表2-1-1 パソコンの利用内容（学年別）

	(%)							
	小4生 (576)	小5生 (621)	小6生 (773)	中1生 (768)	中2生 (801)	中3生 (748)	高1生 (1,658)	高2生 (1,312)
インターネットで調べものをする	66.7	83.6	87.6	87.4	90.0	93.3	94.5	93.8
音楽をダウンロードする	18.8	21.7	29.4	36.6	39.0	45.6	44.0	45.9
学習ソフトを使って勉強する	28.5	23.2	16.8	17.8	8.6	7.4	7.5	6.9
電子メールを使う	6.3	7.7	11.0	23.8	28.2	37.8	27.4	24.8
動画共有サイトを見る	—	—	—	60.7	68.8	79.1	76.4	74.4
ネットゲーム(オンラインゲーム)をする	—	—	—	37.1	30.6	27.7	24.1	21.1
ネットショッピングをする	—	—	—	13.3	14.9	25.3	25.0	32.1

注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) 「する」の%。

注3) 「動画共有サイトを見る」「ネットゲーム(オンラインゲーム)をする」「ネットショッピングをする」は、中・高校生のみなたずねた。

注4) () 内はサンプル数。

表2-1-2 パソコンの利用内容（学校段階別／性別）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (972)	女子 (1,000)	男子 (1,135)	女子 (1,180)	男子 (1,348)	女子 (1,619)
インターネットで調べものをする	80.2	80.3	90.0	90.3	93.9	94.4
音楽をダウンロードする	21.0	< 26.7	42.6	38.1	48.8	> 41.4
学習ソフトを使って勉強する	18.0	< 26.4	9.9	12.5	7.3	7.2
電子メールを使う	5.9	< 11.2	22.6	< 36.8	19.2	< 32.1
動画共有サイトを見る	—	—	68.0	70.5	76.2	74.9
ネットゲーム(オンラインゲーム)をする	—	—	32.3	31.3	25.3	20.6
ネットショッピングをする	—	—	18.8	16.6	29.3	27.2

注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) 「する」の%。

注3) 「動画共有サイトを見る」「ネットゲーム(オンラインゲーム)をする」「ネットショッピングをする」は、中・高校生のみなたずねた。

注4) <>は男女で5ポイント以上差があるもの。

注5) () 内はサンプル数。

パソコンの利用についての意識

家庭でのパソコン利用に関する子どもの意識をみると、学校段階があがるにつれてパソコンに対するネガティブな感覚は薄れ、積極的に利用する傾向がある。また、パソコン利用時の没入感は、中学生以降の男女間で意識の違いが大きい。

◆ 学年により異なるパソコン利用に関する子どもの意識

図2-2-1は、パソコン利用者にたずねた「パソコンについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という設問に対して、「とてもそう」および「まあそう」と回答した合計を学年別、および学校段階別に示したものである。

学校段階があがるにつれ、「パソコンで知らない人とやりとりするのは怖い」といったパソコン利用に関するネガティブな感覚は薄れる（小学生84.9%、中学生73.8%、高校生70.6%）。その反面、「パソコンを使っていると時間を忘れる」といった多少過剰な積極性が高まる傾向がある（小学生36.1%、中学生47.9%、高校生54.5%）。

また、「パソコンの使い方に詳しいほうだ」（小学生42.0%、中学生36.9%、高校生36.3%）や「パソコンの使い方は難しいと思う」（小学生46.6%、中学生57.5%、高校生67.0%）といったパソコンの利用スキルに関する意識については、学校段階があがるにつれて難しく感じる傾向がある。これらの原因については、パソコンの利用方法・範囲が徐々に広がっていくためと推測される。

◆ 男女間で異なるパソコン利用に関する子どもの意識

表2-2-1はパソコン利用に関する子どもの意識について性別に示している。男子と女子の間で、パソコン利用に関する意識について、とくに差が出ている項目を以下に示す。

「パソコンで知らない人とやりとりするのは怖い」

小学生	男子	80.4%	差 9.0ポイント
	女子	89.4%	

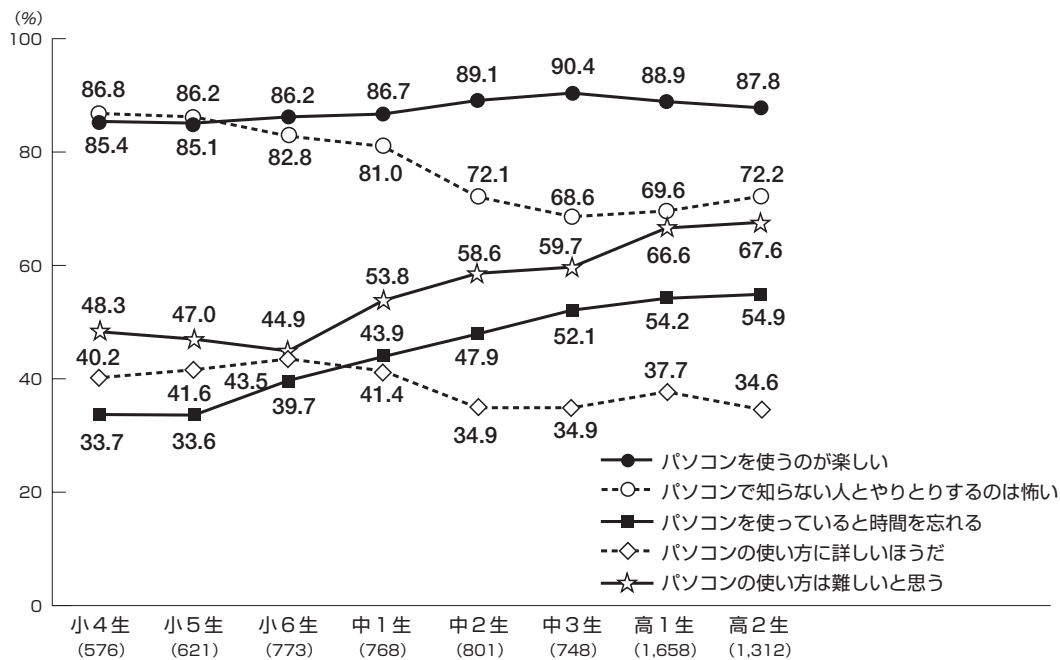
「パソコンを使っていると時間を忘れる」

中学生	男子	37.6%	差 20.5ポイント
	女子	58.1%	

高校生	男子	44.4%	差 18.3ポイント
	女子	62.7%	

このようなパソコン利用時の没入感に関しては、中学生以降で男女間の意識の違いが大きく、興味深いところである。

図2-2-1 パソコンについてあてはまること(学年別、学校段階別)



	小学生 (1,975)	中学生 (2,326)	高校生 (2,988)
パソコンを使うのが楽しい	85.6	88.7	88.5
パソコンで知らない人とやりとりするのは怖い	84.9	73.8	70.6
パソコンを使っていると時間を忘れる	36.1	47.9	54.5
パソコンの使い方に詳しいほうだ	42.0	36.9	36.3
パソコンの使い方は難しいと思う	46.6	57.5	67.0

注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

注3) () 内はサンプル数。

表2-2-1 パソコンについてあてはまること(学校段階別/性別)

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (972)	女子 (1,000)	男子 (1,135)	女子 (1,180)	男子 (1,348)	女子 (1,619)
パソコンを使うのが楽しい	84.4	86.7	86.0	91.4	86.9	89.6
パソコンで知らない人とやりとりするのは怖い	80.4	89.4	71.5	76.3	68.3	72.7
パソコンを使っていると時間を忘れる	35.5	36.7	37.6	58.1	44.4	62.7
パソコンの使い方に詳しいほうだ	44.2	39.8	36.9	37.1	35.7	36.8
パソコンの使い方は難しいと思う	45.8	47.3	57.7	57.3	68.1	66.2

注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

注3) () 内はサンプル数。

パソコンの利用に対する親のかかわり

家庭での子どものパソコン利用に関して、事前のルール決めや状況把握といった親の関与度合いは、学校段階があがるにつれて希薄化する傾向がある。また、同じ学校段階でも子どもの成績層により親の関与度合いに差があり、この傾向は学校段階が低いほど顕著である。

◆ 学校段階があがるにつれて薄まる親の関与度合い

図2-3-1より、パソコンの使い方について、親とルール（約束事）を「決めていて守っている」子どもの割合は、小学生53.1%に対し、中学生29.7%、高校生16.1%となっている。このことから、学校段階があがるにつれて家庭内での子どものパソコン利用に関する親の関与度合いは少しずつ希薄化していると考えられる。

また、表2-3-1は、同じ設問の成績・高校偏差値層別の内訳を示しているが、小学生で親とルール（約束事）を「決めていて守っている」割合は、成績上位層で58.2%に対して下位層では46.7%と11.5ポイントの差があり、上位層の子どもの家庭ほど親子間で利用ルールを決めている傾向がある。成績・高校偏差値層による親のかかわり方の違いは、中

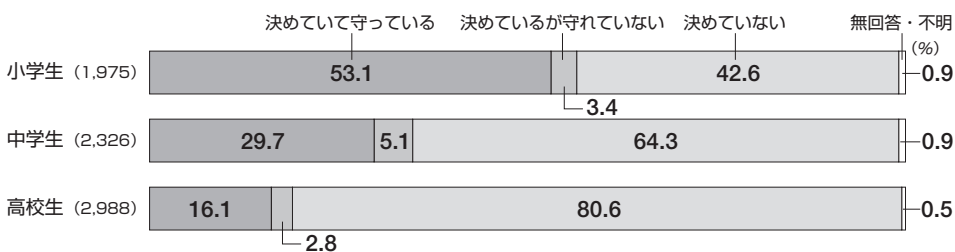
学生および高校生でもほぼ同様の傾向である。

◆ 親は子どもの利用状況をおおむね把握

図2-3-2より、子どものパソコンの使い方について、親が把握していると子どもが思っている割合（「よく知っていると思う」＋「まあ知っていると思う」の%）は、小学生の85.6%を筆頭に、中学生76.1%、高校生69.1%と、多くの子どもは親がパソコンの利用状況を把握していると考えている。

また、表2-3-2は同じ設問の成績・高校偏差値層別の内訳を示しているが、小学生における上記の割合は、成績上位層で89.4%に対して下位層では80.7%と8.7ポイントの差があり、上位層の子どもの家庭ほど親の把握度合いが高い傾向がある。成績・高校偏差値層によるこのような違いは、中学生および高校生でもほぼ同様の傾向である。

図2-3-1 パソコンの使い方についての親とのルール（約束事）の有無（学校段階別）



注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。 注2) ()内はサンプル数。

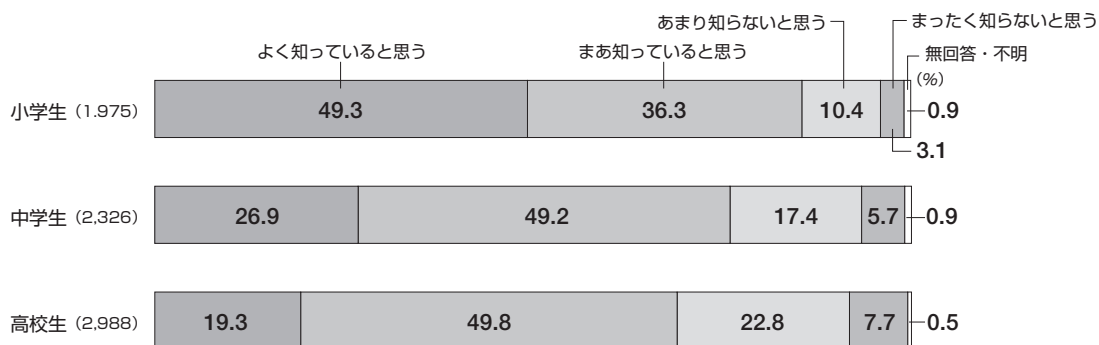
表2-3-1 パソコンの使い方についての親とのルール（約束事）の有無
（学校段階別／成績・高校偏差値層別）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (605)	中位 (784)	下位 (507)	上位 (872)	中位 (660)	下位 (744)	進学校 (795)	中堅校 (1,443)	進路多様校 (750)
決めていて守っている	58.2	52.6	46.7	32.6	29.8	25.7	19.4	16.5	12.0
決めていないが守れていない	1.8	4.0	4.3	5.5	3.6	6.0	2.9	2.8	2.7
決めていない	39.3	42.7	47.3	61.5	65.9	66.7	77.4	80.2	84.7
無回答・不明	0.7	0.8	1.6	0.5	0.6	1.6	0.4	0.5	0.7

注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) () 内はサンプル数。

図2-3-2 子どものパソコンの使い方についての親の認知（学校段階別）



注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) () 内はサンプル数。

表2-3-2 子どものパソコンの使い方についての親の認知
（学校段階別／成績・高校偏差値層別）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (605)	中位 (784)	下位 (507)	上位 (872)	中位 (660)	下位 (744)	進学校 (795)	中堅校 (1,443)	進路多様校 (750)
よく知っていると思う	57.2	47.6	43.8	28.0	29.7	23.0	19.0	19.6	18.9
まあ知っていると思う	32.2	38.5	36.9	50.1	47.0	49.6	51.6	50.0	47.5
あまり知らないと思う	7.8	10.2	13.8	18.0	16.4	17.9	22.4	22.5	23.7
まったく知らないと思う	2.0	3.1	4.5	3.6	6.4	7.9	6.7	7.3	9.5
無回答・不明	0.8	0.6	1.0	0.3	0.6	1.6	0.4	0.6	0.4

注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

注2) () 内はサンプル数。

パソコンの非利用者の意識

家庭でのパソコン非利用者の約半数にパソコン利用意向がある。とくに、家にパソコンがないと回答した子どもの利用意向が高く、小学生、高校生の6割以上、中学生では7割以上が家庭でパソコンを使いたいと考えていることがわかった。

◆ 中1生を境に利用意向は減少

家でパソコンの非利用者（「家にパソコンはあるが、自分は使わない」「家にパソコンはない」と回答した人）に、家でパソコンを使いたいと思うかをたずねた。回答は、「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4つの選択肢のなかから1つを選択する形式であった。

図2-4-1は、学年別に、それぞれの選択肢を選んだ子どもの比率を示した。非利用者のパソコン利用意向（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の％、以下同）は、どの学年でも4割を超えており、小4生（45.1％）から、小5生（46.6％）、小6生（50.0％）、中1生（56.7％）と、学年があがるにつれて上昇し、その後は、高1生（47.7％）、高2生（43.7％）まで減少している。中1生の利用意向がもっとも高いことの理由は、今回の調査だけからは読み取ることはできなかったが、中1生から高2生まで、利用意向が下がっているなかで、「まったくそう思わない」と回答した子どもの割合は下がっていないのは興味深い。これはパソコンの利用に関して、拒絶しているわけではなく、どちらかといえば、興味・関心が低くなっていることのあらわれではな

いかと思われる。

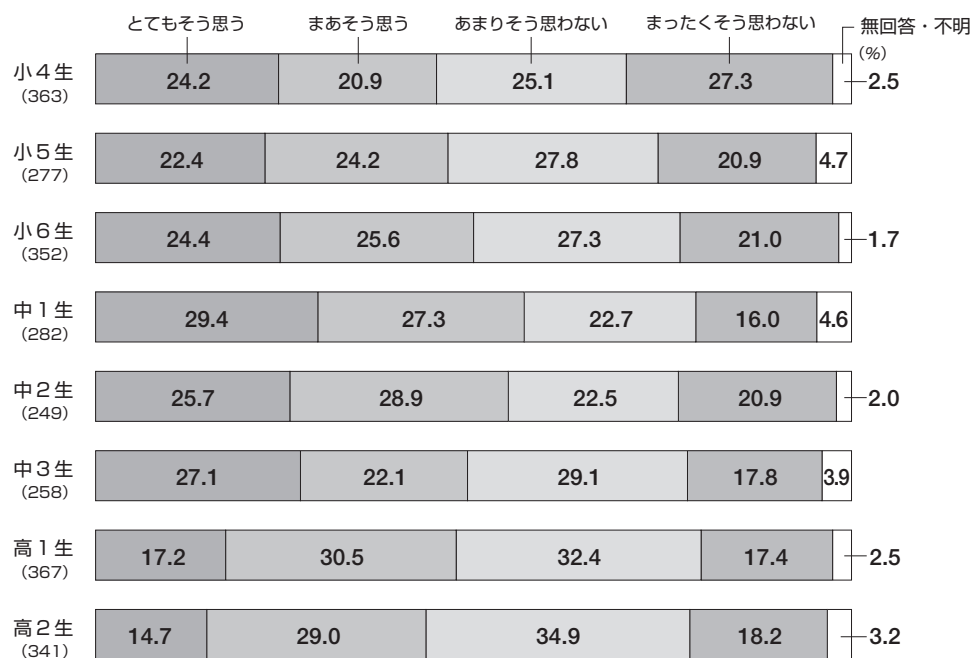
◆ 「家にパソコンはない」と回答した子どもの利用意向は高い

次に、家でパソコンの非利用者を、さらに「家にパソコンはあるが、自分は使わない」層と「家にパソコンはない」層とに分けて分析した。

図2-4-2に、「家にパソコンはあるが、自分は使わない」「家にパソコンはない」と回答した人ごとの、パソコン利用意向を学校段階別に比較したものを示した。

すべての学校段階で、「家にパソコンはあるが、自分は使わない」と回答した子どもに比べて、「家にパソコンはない」と回答した子どものほうが、大幅に利用意向が高かった。両者の差を学校段階別にみると、中学生でもっとも差が大きく（33.9ポイント差）、次いで高校生（29.6ポイント差）、小学生（23.8ポイント差）の順であった。「家にパソコンはない」と回答した子どもだけを見ても、すべての学校段階で、6割以上が家庭でパソコンを使いたいと考えており（小学生62.2％、中学生72.4％、高校生63.6％）、とくに中学生でその傾向が強いことがわかった。

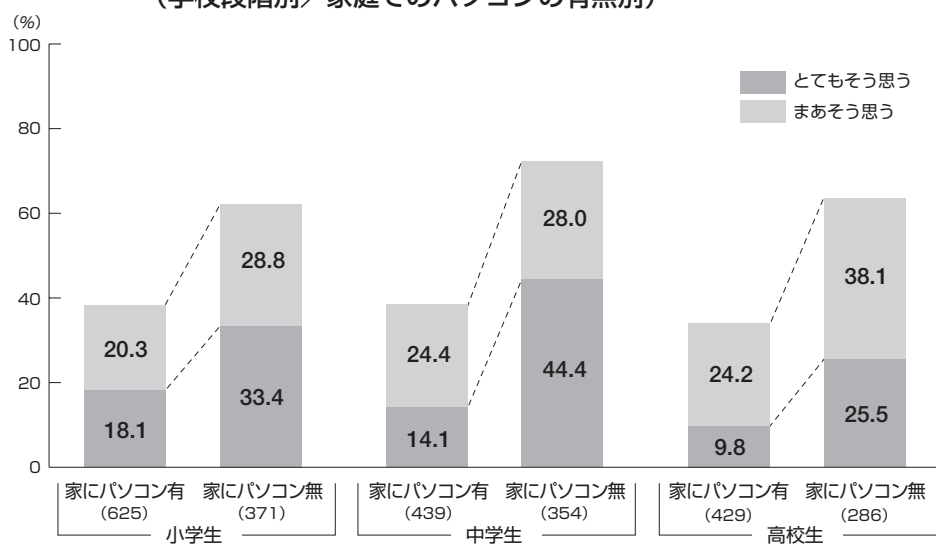
図2-4-1 家庭でのパソコン非利用者のパソコン利用意向（学年別）



注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「家にパソコンはあるが、自分は使わない」「家にパソコンはない」と回答した人のみ対象。

注2) ()内はサンプル数。

図2-4-2 家庭でのパソコン非利用者のパソコン利用意向（学校段階別／家庭でのパソコンの有無別）



注1) 「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「家にパソコンはあるが、自分は使わない」「家にパソコンはない」と回答した人のみ対象。

注2) 「家にパソコン有」は「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「家にパソコンはあるが、自分は使わない」と回答した人。「家にパソコン無」は「家にパソコンはない」と回答した人。

注3) ()内はサンプル数。

家庭学習でのパソコンの利用

家庭学習でのパソコン利用はどの学校段階でも3割以下だが、利用者のうち、小・中学生では約8割、高校生でも約7割がパソコンを使った勉強は楽しいと感じている。非利用者の家庭学習での利用意向は約3割だった。

◆ 家庭学習でのパソコン利用は

小学生で2割強、中・高校生で3割弱

家庭で勉強するときにパソコンを使うことがあるかをたずねた。回答は「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」の4つの選択肢のなかから1つを選択する形式であった。本調査ではここでの設問とは別に、家に本人が利用できるパソコンがあるかどうかをたずねているが（第2章第1節参照）、この設問では、後の設問でパソコンでの学習意向をたずねることも狙ったため、すべての子どもを対象としている。

図2-5-1は、学校段階別に、それぞれの選択肢を選んだ人の比率を示した。利用率（「よくある」＋「ときどきある」の％、以下同）は、学校段階があがるにつれて上昇し、小学生で25.9％、中学生で28.7％、高校生で29.4％であった。

学年別にみると、表2-5-1に示したように、小学生では学年があがるにつれて利用率が増えるのに対して、中・高校生では逆に下がる傾向にある。

また、パソコンの所有形態別にみると、図2-5-2に示したように、「自分専用のパソコンがある」子どもは、「家族と一緒に使うパソコンがある」場合に比べて、学習での利用率が高かった。

◆ 利用者の7～8割がパソコンを使った勉強は楽しいと感じている

家庭学習でのパソコン利用者（家庭学習でのパソコン利用について、「よくある」「ときどきある」と回答した人）に、パソコンを使った勉強は楽しいかをたずねた。回答は、「とても楽しい」「まあ楽しい」「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」の4つの選択肢のなかから1つを選択する形式であった。図2-5-3に、学校段階別に「とても楽しい」「まあ楽しい」と回答した人の合計の割合を示した。小学生では82.6％、中学生では79.7％、高校生では69.0％の利用者が、パソコンを使った勉強は楽しいと感じていることがわかった。

図2-5-1 家庭学習でのパソコンの利用（学校段階別）

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答・不明
小学生 (3,146)	4.3	21.6	19.0	50.1	5.0
中学生 (3,298)	5.5	23.2	23.9	41.8	5.6
高校生 (3,823)	5.7	23.7	27.1	38.0	5.5

注) () 内はサンプル数。

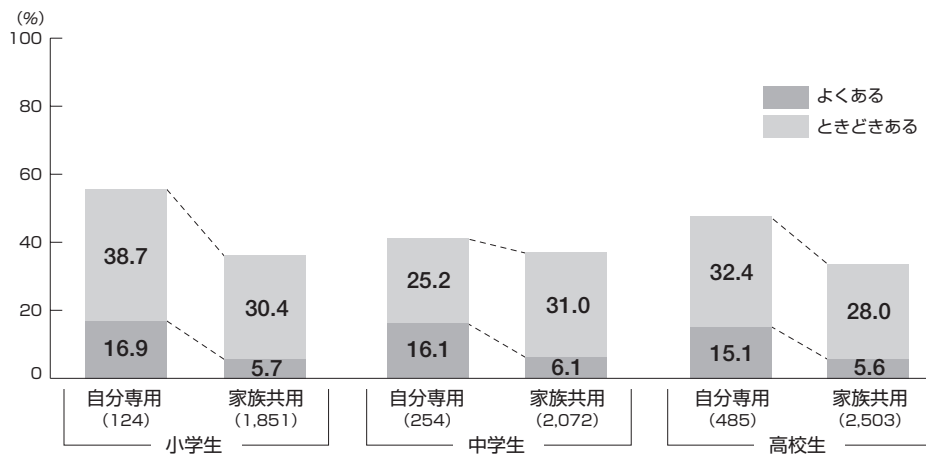
表 2-5-1 家庭学習でのパソコンの利用（学年別）

(%)					
小学生	小4生 (997)	<	小5生 (941)	<	小6生 (1,193)
	20.3		26.9		29.8
中学生	中1生 (1,123)	>	中2生 (1,110)	>	中3生 (1,049)
	33.5		28.5		23.9
	高校生	高1生 (2,097)	>	高2生 (1,698)	
	31.3		27.1		

注1) 「よくある」+「ときどきある」の%。

注2) ()内はサンプル数。

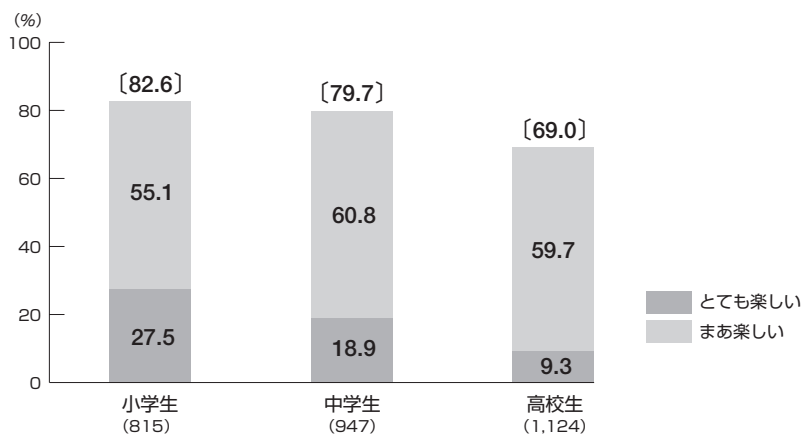
図 2-5-2 家庭学習でのパソコンの利用（学校段階別／パソコンの所有形態別）



注1) 「自分専用」は「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」と回答した人。「家族共用」は「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人。

注2) ()内はサンプル数。

図 2-5-3 家庭学習でのパソコン利用者の満足度（学校段階別）



注1) 「あなたは、家で勉強するときにパソコンを使うことがありますか」の設問に「よくある」「ときどきある」と回答した人のみ対象。

注2) []内は「とても楽しい」+「まあ楽しい」の%。

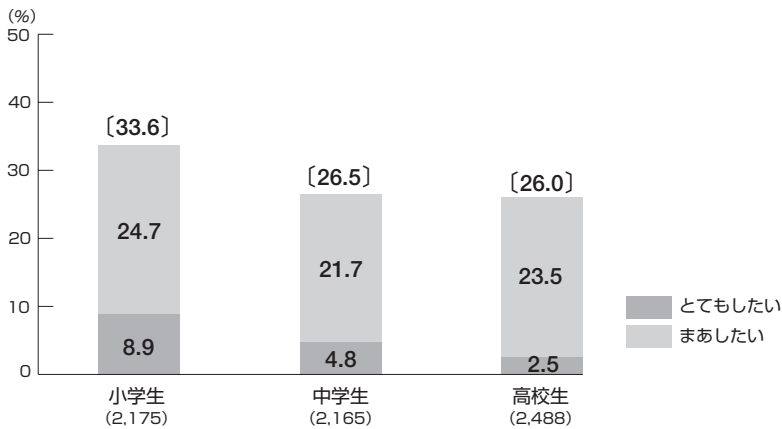
注3) ()内はサンプル数。

◆ 家庭学習でのパソコン非利用者の、 利用意向は約3割

次に、家庭学習でのパソコン非利用者（家庭学習でのパソコン利用について、「あまりない」「まったくない」と回答した人）に対して、パソコンを使った勉強をしてみたいと思うかをたずねた。回答は、「とてもしたい」「まあしたい」「あまりしたくない」「まった

くしたくない」の4つの選択肢のなかから1つを選択する形式であった。図2-5-4に、学校段階別に「とてもしたい」「まあしたい」と回答した人の合計の割合を示した。小学生では33.6%、中学生では26.5%、高校生では26.0%が、パソコンを使った勉強をしてみたいと考えていることがわかった。

図2-5-4 家庭学習でのパソコン非利用者の利用意向（学校段階別）



注1) 「あなたは、家で勉強するときにパソコンを使うことがありますか」の設問に「あまりない」「まったくない」と回答した人のみ対象。

注2) [] 内は「とてもしたい」+「まあしたい」の%。

注3) () 内はサンプル数。

学校でのパソコンの利用

授業でのパソコンの利用はいずれの学校段階でも、「ほとんど使わない」+「月に1日くらい」との回答が大きな割合を占める。一方で「パソコンの使い方」を習ったことは、小4生ですでに9割が「ある」と答えている。

本節では、子どもの学校でのICTの利用実態をみてみよう。ただし、この設問は各調査対象校を通じた質問紙による子どもの回答であるため、各校の方針によって偏りがある点や、各校の方針と実際に授業で習った子どもの印象に差異が生じる点は考慮したい。

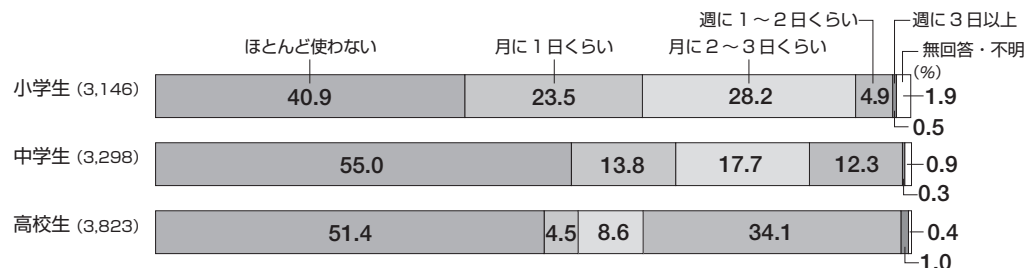
◆ 授業中でのパソコン利用状況

図2-6-1は「あなたは学校で、パソコンをどれくらい使いますか」という設問に対し、「授業中に使う」場合の利用頻度を示している。このうち「ほとんど使わない」と、あまり利用頻度が高くない「月に1日くらい」を選択した割合をあわせると、小学生で64.4%、中学生で68.8%、高校生で55.9%となり、いずれの学校段階でも大きな割合を占めている。一方で、「週に3日以上」使っていると回答した割合は、小学生で0.5%、中学生で0.3%、高校生で1.0%と少ない。子どもが学校で頻繁にパソコンを使っているという印象

はほとんどないようだ。また、「週に1～2日くらい」と回答した割合と「月に2～3日くらい」と回答した割合はそれぞれ、小学生で4.9%と28.2%、中学生で12.3%と17.7%、高校生で34.1%と8.6%である。高校生の段階で頻度が逆転しているが、「情報科」の授業などで定期的にパソコンを利用するためと思われる。

これを図2-6-2で高校偏差値層別にみると、「週に1～2日くらい」と「月に2～3日くらい」と回答した割合は、それぞれ進学校で49.5%と15.8%、中堅校で35.2%と8.6%、進路多様校で19.2%と2.4%となっており、偏差値層による違いがみられる。図表は省略するが各調査対象校としての取り組みを学校調査の結果でみると（基本属性B参照）、「ICTを活用した教科活動を積極的に取り組む必要性」を「とても感じる」「まあ感じる」と回答し、かつ「ICTを活用した教科活動に対して」、「積極的だ」「どちらかとい

図2-6-1 授業中でのパソコンの利用頻度（学校段階別）



うと積極的だ」と答えた学校は、進学校で2校中0校、中堅校で6校中1校、進路多様校で3校中2校であった。限られた本調査での結果ではあるが、学校の方針と授業を受けている子どもの印象にはギャップがあるようだ。

また、地域別にみると、表2-6-1にみられるように中都市や郡部の中・高校生は、「ほとんど使わない」+「月に1日くらい」の割合が大都市に比べて少ない。大都市に比べて、中都市や郡部の学校で学ぶ子どものほう

が、ICTを活用していると感じている様子がみられる。

◆授業以外でのパソコンの利用状況

同様に「授業以外で使う」場合の利用頻度をみたところ、図2-6-3で示すように学校段階を問わず7割以上が「ほとんど使わない」である。これを、家庭でのパソコン利用者（「自分専用のパソコンがある」+「家族と一緒に使うパソコンがある」群）と、家庭でのパソコン非利用者（「家にパソコンはあ

図2-6-2 授業中でのパソコンの利用頻度（高校生／高校偏差値層別）

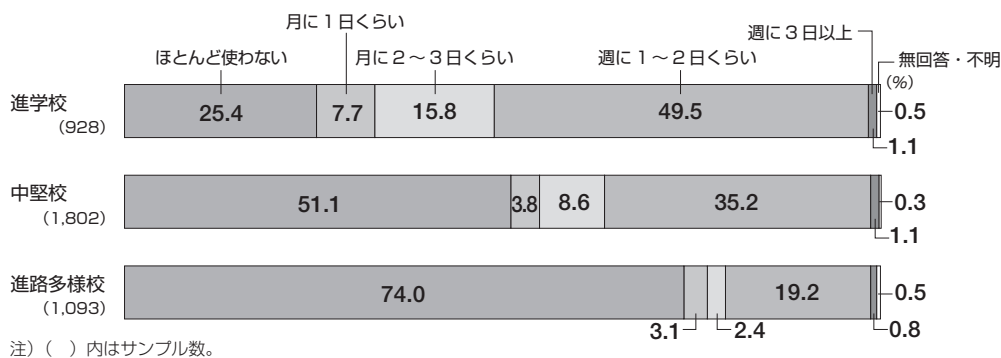


表2-6-1 授業中でのパソコンの利用頻度（学校段階別／地域別）

	小学生			中学生			高校生		
	大都市 (959)	中都市 (1,094)	郡部 (1,093)	大都市 (1,011)	中都市 (1,017)	郡部 (1,270)	大都市 (1,411)	中都市 (1,172)	郡部 (1,240)
ほとんど使わない	26.2	49.9	44.8	77.8	50.2	40.7	77.4	23.0	48.8
月に1日くらい	27.1	23.2	20.7	7.0	17.3	16.3	6.4	5.0	1.9
月に2~3日くらい	36.8	21.0	27.8	6.3	19.2	25.6	2.5	16.8	7.7
週に1~2日くらい	7.8	2.4	4.9	7.5	11.9	16.4	12.2	53.8	40.4
週に3日以上	0.4	0.5	0.5	0.1	0.5	0.2	0.9	1.0	1.0
無回答・不明	1.7	2.9	1.2	1.2	0.9	0.8	0.6	0.4	0.2

注) ()内はサンプル数。

るが、自分は使わない」＋「家にパソコンはない」群)で比較すると、学校段階を問わず両者の間には20ポイント以上の差がある。家庭でのパソコンの利用実態が学校での利用実態とも関係しているようだ。

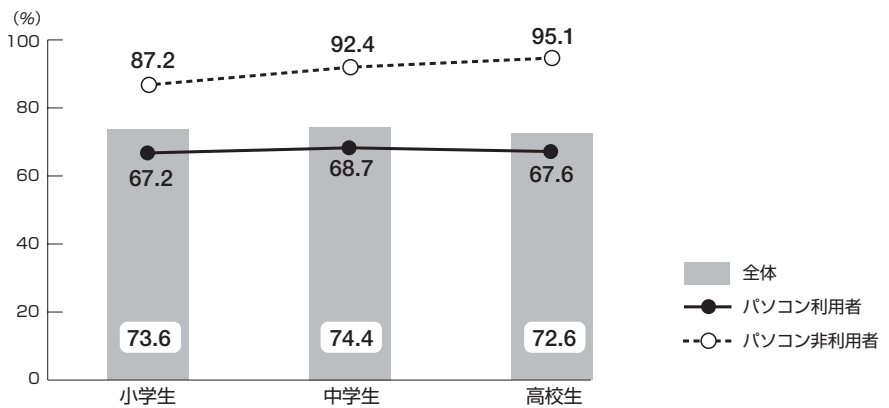
◆ パソコンの使い方についての学習

図2-6-4は学校でパソコンの使い方を習った時期について示している。小学生に対しては、学校で「パソコンの使い方」を習ったことがあるかないかをたずねたところ、小4生で「ある」と答えた子どもが90.5%にのぼった。また中・高校生に対しては、「パソコンの使い方」を習ったのはいつか、あてはまる学校段階をすべてたずねたところ、「小学校」で学んだと回答した中1生、中2生がそれぞれ、93.1%と91.4%である。一方、中3生以降は「小学校」で学んだと回答した割合に減少傾向がみられるが、逆に「中学校」で学んだと回答している割合は増えている。学校におけるICTの普及や時代的な背景が影響していると思われる。

◆ パソコンや携帯電話のルールやマナーについての学習

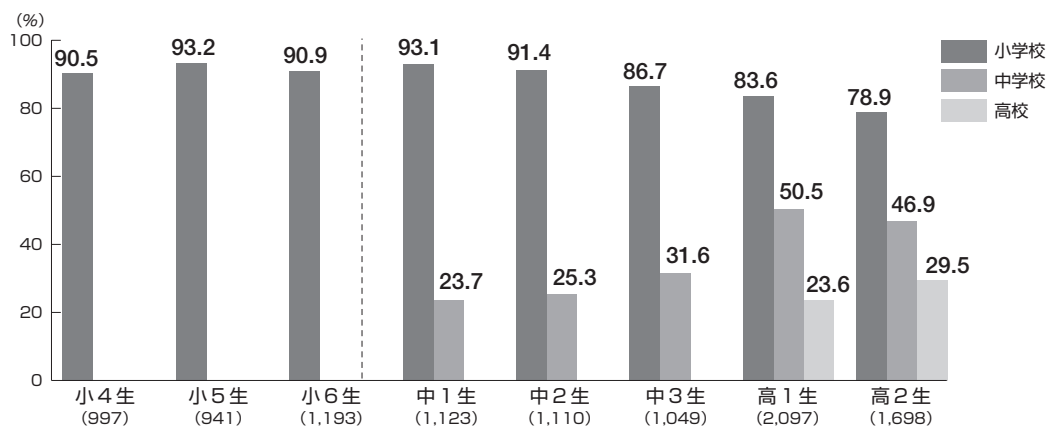
図2-6-5はパソコンや携帯電話を使うときのルールやマナーを学校で習った時期について示している。小学生に「パソコンや携帯電話を使うときのルールやマナー」を習ったことがあるかないかをたずねたところ、「ある」と回答した割合は小4生で57.8%だったのに対し、小5生では71.8%である。中・高校生に対しても、「ルールやマナー」を習ったのはいつか、あてはまる学校段階をすべてたずねたところ、学年があがるにつれて「小学校」での学習経験があるという割合が減少しており、「中学校」の割合が増加している。図2-6-4の「パソコンの使い方」と比較すると、図2-6-5の「ルールやマナー」は学校で取り上げられるようになった時期が遅い傾向があるが、高1生や高2生が小学校で「ルールやマナー」を学習した経験が3割台であるのに対して、小6生や中1生では7割を超えていることから、「ルールやマナー」の学習も「パソコンの使い方」同様に、小学校に広がってきているようだ。

図2-6-3 授業以外でのパソコンの利用頻度（「ほとんど使わない」と答えた割合）
（学校段階別／家でのパソコン利用別）



注1) パソコン利用者は「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人。パソコン非利用者は「家にパソコンはあるが、自分は使わない」「家にパソコンはない」と回答した人。
 注2) 「ほとんど使わない」の%。
 注3) サンプル数は小学生全体3,146人、中学生全体3,298人、高校生全体3,823人。小学生パソコン利用者1,975人、中学生パソコン利用者2,326人、高校生パソコン利用者2,988人。小学生パソコン非利用者996人、中学生パソコン非利用者793人、高校生パソコン非利用者715人。

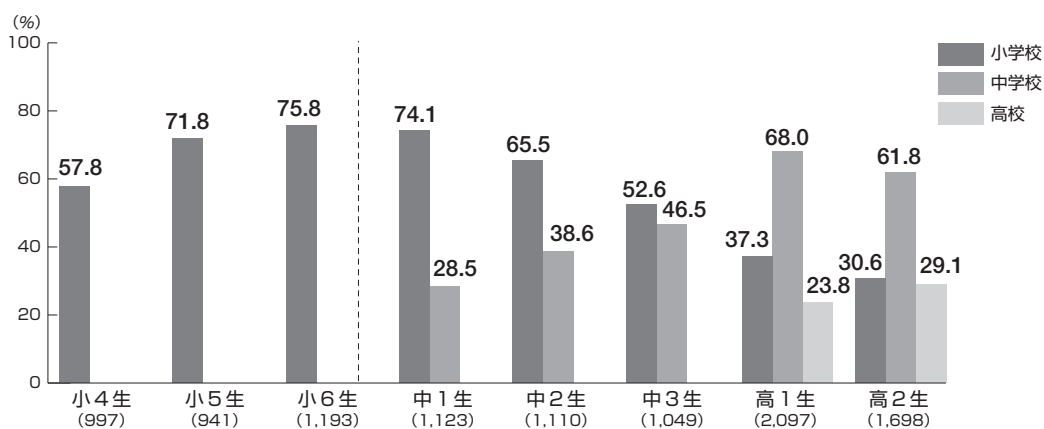
図2-6-4 「パソコンの使い方」を習った時期（学年別）



注1) 小学生は「学校で次のようなことを習ったことはありますか」の設問で「パソコンの使い方」について「ある」「ない」の2択で回答。図中の数値は「ある」の%。中・高校生は「学校で次のようなことを習ったのはいつですか」の設問で「パソコンの使い方」について「小学校」「中学校」「高校（高校生のみ）」「習ったことはない」からあてはまるものを複数回答。

注2) () 内はサンプル数。

図2-6-5 「パソコンや携帯電話を使うときのルールやマナー」を習った時期（学年別）



注1) 小学生は「学校で次のようなことを習ったことはありますか」の設問で「パソコンや携帯電話を使うときのルールやマナー」について「ある」「ない」の2択で回答。図中の数値は「ある」の%。中・高校生は「学校で次のようなことを習ったのはいつですか」の設問で「パソコンや携帯電話を使うときのルールやマナー」について「小学校」「中学校」「高校（高校生のみ）」「習ったことはない」からあてはまるものを複数回答。

注2) () 内はサンプル数。